

木育を活用した地域による 子育ての取組 (茨城県)



木製こま作り

<きっかけ>

子育て(孤育て)に悩む母親を支援する必要性。支援の一つの方法として木のおもちゃでの遊びを選択。

<目的>

- ・子どものストレス緩和、豊かな創造力を育む
- ・母親の子育てへの支援
- ・シニア世代との交流
- ・環境教育、ものづくり、伝統工芸への興味・キッカケ作り

<内容>

- ・木のおもちゃ広場:ショッピングセンターにて年1回開催。2日半で3000人の来場者。
- ・木のおもちゃ広場mini:月次で子育て支援センター等で開催。毎回20組前後の親子が参加。
- ・幼稚園、保育所での木育活動:木の積み木、お話組み木、木のマグネット作り等
- ・森林・林業体験学習:森林環境教育の体験学習を県と連携して実践。間伐材を活用したMY箸作りなどは、地元小学校などに積極的に紹介し、総合学習やイベント等に取り入れられている。
- ・筑波大学での木育紹介:ゼミの中で30名ほどの学生を対象に木育を紹介。



木製こまで遊ぶ子どもたち

<問い合わせ先>

一般社団法人子育てネットワークままもり
TEL : 050-5235-9954(事務局:今野)
メールアドレス : info@mamamori.net

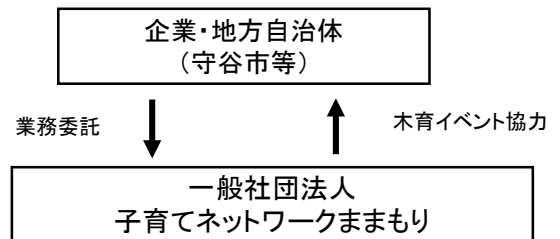
<3つのポイント>

- ・子育てに悩む母親への支援の1つとして、木育を活用。
- ・子育て団体が積極的に木育を展開。
- ・木育を知り、興味をもつ人を着実に増やしている。

本事例は「一般社団法人子育てネットワークままもり」が子育てに悩む母親への支援の一つの方法として、木のおもちゃでの遊びを活用し、子どもの創造力を育んだり、親と子、シニア世代と子どもの交流を促進したり、地域による子育ての推進に取り組んだりしているものです。

<実施体制>

東京おもちゃ美術館/地元の里山ボランティア団体/子育てボランティア団体
木材関係団体/森林組合/守谷市/県南農林事務所(林業普及指導員)



<成果>

- ・森林のない守谷市、また近隣エリア(関東平野)だが、木育を知り、興味を持つ人が着実に増えた。
- いまや木のおもちゃ広場は毎年楽しみにしている固定ファンも多い。
- ・木育というツールにより、多世代交流が推進できた。普段子育てにかかわる機会の少ないおじいちゃん達も、木の工作などの遊びを通して、子ども達と自然にふれあい交流することができている。

<今後の展望>

茨城県及び茨城県内林業関係者と連携し、活動を推進していく考え。

特に保育所、幼稚園での木育活動は手ごたえを感じているため、出前講座として広げていくこととしている。

また、全ての環境の子どもたちに木育に接する機会が得られるよう、茨城県での出前講座の事業化を働きかけている。

<経費>

- ・緑と水の森林ファンド事業
- ・茨城県元気な森林づくり活動支援事業
- ・プロボノワーカーによる営業資料作成事業
- ・企業等の寄付
- ・保育所、幼稚園、子育て支援センターでの木育ワークショップ業務委託費
- ・イベント出展時、木のワークショップ(スプーン作り、木のマグネット工作など)の売上

<ここに注目！>

林業関係ではない、子育て関係の団体が木育を推進している点が特徴的です。子育てや多世代交流という文脈で「木育」という手段を活用しています。今後、山側ともつながり活動の幅が広がることを期待します。